

19 not Alone—きみはひとりじゃない

(HIV感染者等)
えいちあいびいかんせんしゃなど

5 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、ハルがお届けします。

福岡市にある「not Alone FUKUOKA（ノット・アロン・フクオカ）」は、HIV陽性者によるHIV陽性者のための交流会を開催している団体です。

10 代表の灰来人（はいらいと）さんは、自身もHIV陽性者です。陽性が判明した時は、まだ詳しい知識がなく、「もう死んでしまうんだ」と一人で悩み、恐怖しかなかったといいます。

15 その後、治療法を知り、自分とHIV陽性で苦しんでいる人と交流を持つことで、心の重荷が軽くなった経験から、「not Alone FUKUOKA」を立ち上げました。

20 交流会の参加者の一人、Aさんも灰来人さんと同じように、誰にも言えず、不安な日々を過ごしていました。「このまま仕事が続けられるのか。もし、家族や友達に知られたら自分のもとから去ってしまうのではないか…。」そんな思いで、生きる希望を見失いかけていました。

25 交流会の存在を知った時も、陽性者として人前に出ること
に大きな抵抗がありました。最初は緊張してうつむいたまま、聞き取れ
ないほど小さな声で話していたAさんですが、交流会が終わ
るところには「また来るよ。」と、笑顔で帰って行きました。同
じような苦しみを抱えた人の話を聞くことで、「自分だけじゃ
ない」という思いを共有できて、心強く感じたからです。

30 今日では医学の進歩によって、HIVに感染しても薬でエ
イズの発症を抑え、通常の生活を送ることが出来ます。しか
し、今も誤った知識のために、医療や介護の現場で診療や支援
を拒否されることがあるそうです。

35 灰来人さんは言います。
「確かにHIVやエイズは『死に至る病気』ではなくなりま
した。しかし、ある意味では、今もなお『死に至る病気』で
す。精神的に追い詰められて、自殺する人がいるからです。」
40 実際、HIVの感染が判明して自殺を考えたことがある人
は60%以上にのぼるといいう調査結果もあります。

45 HIV陽性者を一人にさせないためには、まず私たちが、
HIVやエイズに対する正しい知識と理解を深め、偏見や
差別をなくしていくことが大切ではないでしょうか。